

平成15年度 施策評価表

○総合計画における位置付け等

平成15年6月5日記入

基本目標	Ⅱ ▼ ゆとりある みどり豊かな環境共生都市をめざして	施策コード	22330
政策名 (章)	第2章 水やみどりの保全と創造に努めます	評価担当課	環境保全部 ▼
基本施策名 (節名)	第2章 水やみどりの保全と創造に努めます		みどり対策課
施策名	緑化活動の支援		柳川 勝

1 施策の概要・目的

市民の手による緑地保全活動や緑化活動を推進するため、(財)みどりの協会と連携し、人材の育成や参加機会の場の提供など市民に対する支援を行い、もって緑化思想の普及・啓発を図り、市民参加型のみどりのまちづくりを進める。

2 施策の現状

みどりのまちづくり基金の運用収益を含めて(財)みどりの協会に助成を行いし、市民レベルでの緑化活動等を推進している。また、近年、保全緑地の一部での緑地保全活動や市民植樹などの緑化活動に市民ボランティアが積極的に取り組むなど、みどりに係る市民の関心は高まってきており、市では、みどりの協会を通じてみどりのボランティアの育成・支援に取り組んでいる。

3 総事業費及び人員

(1) 施策に要している総事業費

99,523 千円……構成事務事業全体の事業費合計(人件費含む)

(2) 市民1人当りの事業費

162 円/人……人口は、**61.6** 万人とした。(平成15年4月1日現在人口)

(3) 全施策中の順位(事業費)

この施策の市民一人当たり事業費は、全123施策のうち、第 **82** 番目です。

(4) 施策に要している人員

0.40 人……構成事務事業全体の人員合計

4 評価指標

指標	指標名および指標式	指標の意図	現状値と目標値			目標
			現状	目標	達成度	目標年度
指標1	森林ボランティア講習会参加者のボランティア登録率 登録者数÷講習修了者数×100	ボランティア育成事業への関心の高さを一つの指標として捕らえる	現状	23 人 単位	0 50 100	目標年度
			目標	30 人 単位	77%	達成度
指標2	アジサイフェア来場者数目標達成率 平成14年度来場者数÷目標来場者数	協会主催事業(市共催)への関心を一つの指標として捕らえる	現状	101 千人 単位	0 50 100	目標年度
			目標	110 人 単位	91.80%	達成度
指標3			現状	単位	0 50 100	目標年度
			目標	単位	%	達成度

5 必要性…市民ニーズに合っているか、行政需要の変化に対応しているか

緑地保全・緑化を含めた環境保護に対する市民の関心は高まりをみせ、これらの問題に係わる活動に自発的に取り組む動きが活発化している。また木もれびの森など広大な保全緑地を将来にわたって適正に管理していくためには、市民と行政のパートナーシップの原則に基づき市民参加により緑地保全・緑化を進めることが、今後ますます重要となる。

6 有効性…期待される効果があがっているか

みどりのボランティア育成講習会の受講者のボランティア登録率が8割近くになるなど、市民の緑地保全に対する意識は確実に高まっている。現時点で(財)みどりの協会とも連携して自主的に緑地保全に取り組んでいる市民ボランティアグループが9団体活動しているなど、市民参加型森づくりへの取組みは成果を上げている。また、(財)みどりの協会が主催する公園フェアなどのイベントにも例年多くの市民が詰め掛けている。

7 効率性…費用対効果が優れているか、もっと大きな効果が得られるものはないか

みどりのまちづくり基金の運用収益を活用し、また、市民ボランティア等と協働して施策を進めるものであり、有効性、効率性が本来高い事業である。

8 市民満足度調査結果からの分析(平成15年度調査)

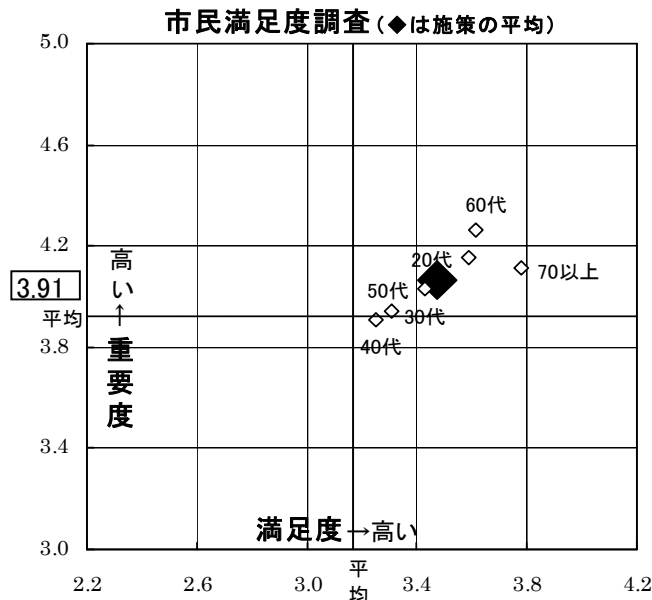
◆この施策の満足度は、3.474で、調査した51施策の中で2番目です。

◆この施策の重要度は、4.063で、調査した51施策の中で20番目です。

◆この施策の改善要望度は、0.417で、調査した51施策の中で30番目です。

◇年齢別にみると、満足度は60歳代以上及び20歳代が高く、30歳代及び40歳代で低くなっています。同様に重要度でも60歳代以上及び20歳代が高く、30歳代及び40歳代で低くなっています。満足度が高いほど重要度も高い傾向がみられます。

市民満足度調査は、基本施策51項目(節)について調査しています。したがって、上位の基本施策が同じ場合は同じ内容となっています。(「〇総合計画における位置付け等」参照)

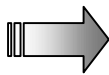


9 課題…施策を実現するにあたり、課題となっていること等

相模原市みどりのまちづくり基金の運用収益はピーク時の10分の1以下となっており、(財)みどりの協会の必要な機能を確保した中で補助金に充当する一般財源を抑制することが課題となっている。このため、(財)みどりの協会について、業務内容や事業の重点化、収益性の向上など、経営計画を含めた財団のあり方を十分検討する必要がある。(15年度以降必要に応じて順次改善を進める予定)

10 今後の方向性(一次評価)

今後の方向
<input type="checkbox"/> 拡充する
<input type="checkbox"/> 現状維持する
<input checked="" type="checkbox"/> 見直し



説明及び具体的内容

現在直営中心で行っている保全緑地の維持管理について、今後は市民参加型を基本とし、更に市民ボランティアの育成・支援を進めていくとともに、自主的に活動しているボランティア団体等との更なる連携を図っていく。その主体として(財)みどりの協会がより機能するように協会のあり方の整理・改善を進める。

11 2次評価

	説明
<input checked="" type="checkbox"/> A	市民とのパートナーシップによる緑地の維持管理体制の構築に向けて、市民参加やボランティアの活用を一層進めること。
<input type="checkbox"/> B	
<input type="checkbox"/> C	

12 外部意見

説明
緑地の維持管理等については、市民とのパートナーシップを積極的に進め、事業展開を図るべきである。

